

事業報告書（令和 3年度）

事業名 岡山いいとこ！おいでんせえカフェ

団体名 一般社団法人おいでんせえ岡山 担当者名 逢澤直子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

- ・日時：毎月第3日曜日から16時まで開催（10月より1部4組2部4組とする）
- ・場所：ハッシュタグ
- ・コロナ渦中での参加人数を15名に制限（毎回予約をとる）
- ・内容：

移住および下見に来られた方、岡山の地元の様々な分野の団体、個人、企業、子育てママパパとの交流、ひとり親の方に、健康セミナーや生産者の生產品の話など、各分野の専門家の話を聞く場所を築き、地域の取り組みを分かち合う、対話・交流を目的とする。

岡山の良さをいろんな角度からPRし、興味を持っていただく。

地域の特色を活かした生產品などを考えたり、交流がきっかけとして防災への認識を持っていただく。

地域の、また移住者の生產品を並べる。

- ・6月オンライン開催（マンボウのため）
- ・7月18日15人・オニビジョン取材・岡山大学生見学



- ・8月15日30人夏休みで子供多くバタバタでスイーツの写真のみです)



・9月19日15人(議員さんも参加)



・10月17日(福島より移住された方のお話)(2部制)18人



・11月7日(アースデイ岡山内出店)50人



・12月19日(クリスマス会)明治製菓よりご寄付いただいたお菓子も配布。50名





・1月16日20人 今回も明治製菓ご寄付のあったお菓子も配布。



・2月20日マンボウのため zoom でオンライン (10:00~12:00) 全国より10人の参加。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

ESDの視点を取り入れたところ

- ② 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
- ③ あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
- ④ すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
- ① 包摂的で安全かつ強靭で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
- ⑫ 持続可能な生産消費形態を確保する。

ESDの視点で見直したところ

⑩ 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。⇒コロナ渦中での子供に対する虐待などの暴力を撲滅する。

3. 取組の成果 (参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

※事業内容がESDにどう貢献したか等を記入してください。

- ・食への意識、消費者意識が目覚めた。
- ・移住および下見の方には、地域の取り組みを理解していただけた。
- ・実際に生産者、生産品を紹介することで農を体験してもらったり、交流もうまれ、意欲的になった。
- ・対話を続けながら、ニーズを聞き取り、安心感を与えられる場所の確保で孤立感を防ぎ一歩前へと生きる力となった。特にコロナ渦中なので。
- ・参加者さんの心のうちをさらけ出せる場所の確保で安全安心を感じていただき、一歩前へとすすめられた。
- ・持続可能な社会づくりとして自分の居場所を見つけ、地域貢献の場所として視点を変えたり、見方の変化を見られることが良かった。
- ・生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持となり、地元をはじめとして、多くの方に知っていただき、生産者の自信を回復し、事業としてより取り組め生産者の励みにもなった。

- ・食育、農業、仕事、健康、教育、法律などの専門分野での講師を招き、話をしてもらうことで、学ぶ機会となった。
- ・顔の見える生産者の紹介や販売、食の提供により、安心安全な場が作れた。
- ・ネットでのライブ配信を行うことで岡山県外の方にも広がった。
- ・地域の中の一員としての気づきや、地域に貢献していきたいこと、発信したいことなど、地元の一員としての役割に気づくことで、孤立化及び転出者を防ぎ、住み続けられるまちづくりとなり、子供たち次世代へとつながる可能性が見えた。
- ・自分の居場所を見つけ、地域貢献の場所として視点を変えたり、見方の変化を見られることが良かった。
- ・生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持となり、地元をはじめとして、多くの方に知っていただくことができた。
- ・移住者の多いことをきっかけに、地域の特色を活かした生産を考え、交流を持つことで、地域の一員の自覚に目覚め、おのずと防災への認識を持っていただくきっかけ、一助となった。
- ・食育、農業、仕事、健康、教育、法律などの専門分野での講師を招き、話をしてもらうことで、学ぶ機会となった。
- ・農業生産者の自信を回復し、事業としてより取り組めるきっかけとなり、また同じ目的で移住される方、または転職される方の励みになった。

4. 今後の課題と展望

コロナ渦中という背景が思いのほか深刻で、生活・健康への不安が多く、新生児を連れてお母さんやひとり親の方が多く参加された。

岡山市内でこれ以上の虐待、悲惨な事件が発生しないようにもっと精進していきたい。

地域の中の一員としての気づきや、地域に貢献していくなど、自立ケアのサポートをしていきたい。

コミュニティとして参加者のつながりと、連携団体の繋がりが広がったので、このような居場所を続けていくことを励みたい。